

脅威に立ち向かう医療BCP

医療BCP (Business Continuity Plan) は脅威に対する戦略です。マニュアルとは異なり、遵守するよりも臨機応変、自主性や自律性を高め、より良い対応を図るための計画書です。

発災時に居合わせた患者をどうすべきか、どれくらいの期間、どのようなレベルの診療ができるか、地域での自院の役割は何か、BCPを策定すれば想定や計画を関係者で共有することができます。

非常事態だからこそ使える戦術はたくさん潜在しています。顕在化できれば、現有のリソースを増強せずとも強靱化に寄与し、『災害時に実践できる医療』の幅を広げられる可能性が高まります。

BCP策定における基本的な考え方の例

停電しない病院より、停電に強い病院という考えた方。堅牢より強靱。スタッフが多くの代替手段を知っていることで対応力が高まります。分電盤の故障時は大型非常発電設備より可搬型発電機が役立ちます。

発災後の転院時、救急車や介護車両は手配困難ですが手段は多様にあり、農耕用トラクターや娯楽施設の送迎バスでも患者を運ぶことはできます。発災前に連携協定を締結すれば手配の確実性は更に高まります。

院内に職員家族用避難所があれば非常事態で帰るに帰れないスタッフの安心感が高まります。移動時間に代え休息時間が確保でき、移動中の被災リスクは低減、安定した人員確保にも寄与します。

NESのBCP策定手順は3段階

基本構想

何を脅威とし、どのような医療を提供していくかなどのコンセプトを決めます。

基本設計

地域における自院の役割と重要業務を明確にし、全体の骨子をデザインします。

実践計画

実践性を重視し、非常時に現実的に出来得る事を計画にまとめ、BCPとします。

BCP策定後にはマネジメント (BCM) や見直し (PDCA) のサービスもご用意しています。

